2020年コレクション展Ⅱ　2020年10月10日（土）~12月27日（日）

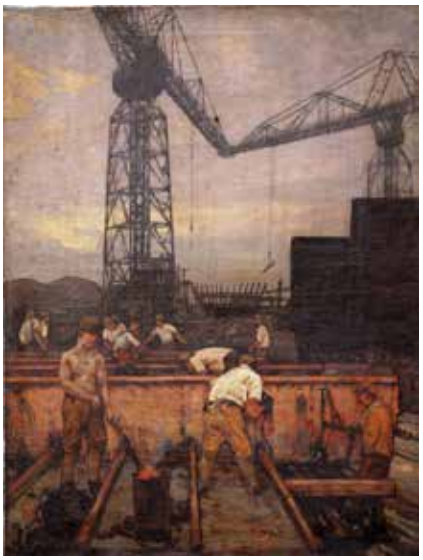
兵庫県立美術館では、前身である兵庫県立近代美術館（1970年開館）から継続的に作品収集を続け、これまでに収蔵された作品数は10,000点以上にのぼります。今年度**第Ⅱ期のコレクション展は**小企画と特集展示を開催します。**小企画**は、アジア・太平洋戦争中に相生市にある播磨造船所とその近辺で建造作業の様子を描いた**吉田博の創作活動に焦点を当て**ます。**特集展示**は、**美術作品を鑑賞する際の目の働きに着目**します。その他、以下の構成で当館の多彩なコレクションを紹介します。

展示構成：　**小 企 画**　**『吉田博 播磨造船所 絵画群』**【常設展示室6】
特集展示　**『視覚遊戯ー美術と目の愉しいカンケイ』**【常設展示室1～3】
選りすぐり館蔵品【常設展示室4】
近現代の彫刻【常設展示室5】
【小磯良平記念室】【金山平三記念室】

小企画

吉田博 播磨造船所 絵画群
The Paintings by Yoshida Hiroshi on Harima Shipyard

吉田博（1876～ 1950　福岡県出身）は、アジア・太平洋戦争の最中、相生市にある播磨造船所とその近辺で「銃後」の建造作業の様子、とくに動員勤労学徒の姿を描きました。その絵が、同造船所の後身であるJMUアムテックとIHI相生事業所に保管されていることが、近年、明らかになりました。そのほとんどを当館で預かりましたので、この度、お披露目の展覧会を開きます。加えて、吉田が学校にも寄贈した動員学徒の絵と、関連する下絵なども展示します。


吉田博《播磨造船所　炎天下の鉸鋲作業》1944年頃
JMUアムテック（兵庫県立美術館寄託）

出品点数：寄託作品15点を含めた油絵21点、下絵数十点を予定

吉田博（よしだ・ひろし）：
1876（明治9）年、福岡県久留米に生まれ、1950（昭和25）年、東京にて死去。洋画家、版画家。明治、大正、昭和にわたる風景画の第一人者。日本の情緒豊かな風景を適格な描写力によって描き、国内よりも欧米で高い評価を受けた。

関連イベント：学芸員による解説会「吉田博と播磨造船所」
日時）10月10日（土）　午後2時～（約45分）
場所）レクチャールーム　※ 聴講無料、先着40名、兵庫県立美術館「芸術の館友の会」会員優先座席あり

特集展示

視覚遊戯
美術と目の愉しいカンケイ
GAME of SIGHT: the delightful connection between Art and Eyes

「特集展示」では、美術作品を鑑賞する際の目の働きに着目します。作品を見ている時、わたしたちは実に多くの情報を得ています。そこから感知するのは、色や形など目に見えるものだけではなく、時には感触や重量、光、時間にさえ及びます。では実際、わたしたちは何を見てものごとを把握しているのでしょうか。無意識に行っている視覚情報の取捨選択と対象の認識という行為に注目し、見ることの限りない可能性について考えます。

嶋本昭三《作品》1960年
山村コレクション
©ShimamotoLAB Inc.

出品点数：当館所蔵作品の中からおよそ200点を予定

出品作家：白髪一雄、八田豊、ヴィクトル・ヴァザレリ、坂上チユキ、森村泰昌、井田照一、植松奎二、李禹煥、嶋本昭三、秋岡美帆、山口勝弘、橋本関雪、小出楢重、斎藤智、オーギュスト・ロダンほか（予定）

関連イベント：（1）学芸員による解説会
日時）10月31日（土）、11月14日（土）、11月15日（日）
各日午後4時～（約45分）
場所）レクチャールーム　※ 聴講無料、先着40名
（2）こどものイベント　※詳細は後日当館Webサイトにて告知

開催情報

2020年コレクション展Ⅱ

会期　2020年10月10日（土）－12月27日（日）

開館時間　午前10時から午後6時（特別展開催中の金・土曜日は午後8時まで）
※ 入場は閉館の30分前まで

休館日　毎週月曜日
※ 11月23日（月・祝）開館、11月24日（火）休館

会場　兵庫県立美術館（〒651-0073　神戸市中央区脇浜海岸通1-1-1　TEL:078-262-0901　https://www.artm.pref.hyogo.jp/）

観覧料

区分	当日	団体（20名以上）	特別展とのセット料金
一般	500円	400円	300円
大学生	400円	300円	200円
高校生以下	無料	無料	無料

※ 一般以外の料金には、証明できるもののご提示が必要です。
※ 毎月第2日曜日（10月11日、11月8日、12月13日）は公益財団法人伊藤文化財団の協賛により無料です。
※ 文化の日を含む3日間（11月3日(火・祝)、4日(水)、5日(木)）及び、関西文化の日（11月14日、15日）は無料です。
※ 団体（20名以上）でご鑑賞いただく場合は事前のご連絡をお願いいたします。

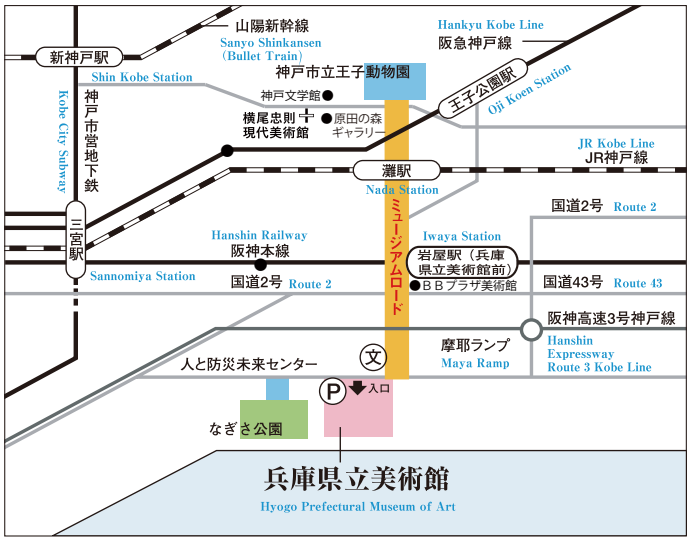
[その他割引適用料金]

区分		当日	団体（20名以上）	特別展とのセット料金
70歳以上		250円	200円	150円
障がい者	一般	100円	100円	50円
	大学生	100円	50円	50円

※ 障がいのある方1名につき、介護の方1名は無料です。

主催　兵庫県立美術館
協賛　公益財団法人伊藤文化財団、サンシティタワー神戸（株式会社ハーフ・センチュリー・モア）
特別協力（小企画）　株式会社ＪＭＵアムテック、株式会社ＩＨＩ相生事業所
企画担当　小企画『吉田博 播磨造船所 絵画群』：出原均、特集展示『視覚遊戯ー美術と目の愉しいカンケイ』：小野尚子

【交通案内】
・阪神岩屋駅（兵庫県立美術館前）から南に徒歩約8分
・JR神戸線灘駅南口から南に徒歩10分
・阪急王子公園駅西口から南西に徒歩約20分
・JR三ノ宮駅南から神戸市バス（29、101系統）阪神バスにて約15分
　HAT神戸方面行き「県立美術館前」下車すぐ
・地下駐車場（乗用車80台収容・有料）



お問い合わせ　兵庫県立美術館 広報担当　細田・村上・有田
TEL: 078-262-0905（直通）　FAX: 078-262-0903　Email: press@artm.pref.hyogo.jp

小企画『吉田博 播磨造船所 絵画群』の見どころと解説【常設展示室６】

見どころ

・**アジア・太平洋戦争**時代の絵は、現存するものが多くない中で、これほどまとまったものは珍しく、たいへん貴重です。
・アジア・太平洋戦争中の**動員勤労学徒**の様子を具体的に知ることができます。
・いくつかの絵は、その**下絵**も展示するので、両方を比べることで、創作の過程が分かります。
・同じ構図の絵が造船所と学校に寄贈されているので、両者を比較する面白さがあります。

吉田博
《播磨造船所　松の浦工場東船台》1944 年頃
IHI 相生事業所（兵庫県立美術館寄託）

吉田博
《播磨造船所　やすり仕上げの女学生》1944 年頃
JMU アムテック蔵

吉田博
《播磨造船所　やすり仕上げの女学生》下絵　1944 年頃
個人蔵

解説

播磨造船所

1907 年創立の「播磨船渠」を出発とする造船所。戦後の一時期は世界有数の建造量を誇るまでになりました。相生の町はこの造船所とともに発展してきました。現在は、造船部門を分社化した JMU アムテックと IHI 相生事業所に引き継がれています。

学徒動員

総力戦のアジア･太平洋戦争では、1943 年頃から壮年の男性が多数徴兵されたため、労働力の不足が深刻となりました。それを補うため、1944 年には、中学校（現在の高校生にあたる）以上の生徒や学生が本格的に軍需産業や食料生産に動員されたのです。

吉田博（よしだ・ひろし）略歴

1876（明治　9）年　福岡県久留米市に、旧久留米藩士、上田東秀之の子として生まれる。
1891（明治 24）年　福岡県立修猷館の図画教師、吉田嘉三の養子となる。
1894（明治 27）年　三宅克己の影響で水彩画を始める。
1899（明治 32）年～ 1891（明治 34）年　初の渡米、渡欧。
1902（明治 35）年　満谷国四郎らとともに太平洋画会を創立。
1903（明治 36）年～ 1906（明治 39）年　2 度目の渡米､渡欧。1904（明治 37）年にはセントルイス万国博で銅牌受賞。
1907（明治 40）年　東京府勧業博覧会で二等賞受賞。
1907（明治 40）年　第 1 回文展で三等賞受賞。以後、文展、帝展で活躍。
1920（大正　9）年　最初の木版画を出版。
1923（大正 12）年～ 1925（大正 14）年　三度目の渡米、渡欧。
1936（昭和 11）年　日本山岳画協会を創立。
1947（昭和 22）年　太平洋画会会長。
1950（昭和 25）年　東京で死去。

特集展示『視覚遊戯ー美術と目の愉しいカンケイ』の展示構成と見どころ【常設展示室１～３】

「特集」では、**美術鑑賞における目の働き**を取り上げます。作品を見る時、わたしたちは実に多くの情報を集めています。平面作品なら、どのようなテーマで何が描かれていて、どのような色や形が使われているのか。立体作品なら、どのような形や大きさで、素材には何が用いられているのか。そこから**得られる情報は、色や形など目に見えるものに限りません。時には手触りや匂いさえも想像することができたり、重力や時間を感じたり、光を意識することもあるでしょう。**実際のところ、わたしたちは何を見て対象を把握しているのでしょうか。**無限の可能性を持つ視覚と美術の関係に迫ります。**

第１章　戯れのまなざし

この章では、**３つのテーマ**を設けて**視覚の不思議な働**きに迫ります。

テーマ「見る手触り」では、**表面の仕上がりが特徴的な作品**を紹介します。**白髪一雄**（1924－2008）は、床に敷いたキャンバスの上に絵の具の塊を乗せ、それを足で縦横無尽にかき混ぜて制作しました。彼の動きに合わせて勢いよく伸びたり飛び散ったり、あるいは塊のまま残った絵の具が多彩な表情を見せています。

白髪一雄《天間星入雲龍》1962 年

テーマ「ゆらぐ像」では、**表面が平らであるにも関わらず、まるで画面が盛り上がったり、動いたりして見えるような手法を取り入れた作品等**を紹介します。**ヴィクトル・ヴァザレリ**（1908－1997）は、幾何学的な形と色を規則的に配置することで、錯視の効果を取り入れたオプ・アートの代表的な作家です。この錯視の現象が起きるには、目だけでなく脳の働きも関係していることが分かっています。「見えて」いるものと実際にあるものが必ずしも一致しないという、あいまいで不確かな感覚を楽しみましょう。

テーマ「ひそやかな世界」では、**小さな点や細い線、微かな色彩などで構成された繊細な作品**を紹介します。**坂上チユキ**は、青色の色鉛筆や水彩、ボールペンなどを使って小さな画面の中に、古代の生物や微生物を思わせる有機的な形を描きました。ともすれば見過ごしてしまいそうなひそやかな世界の前で足を止め、目を凝らしてみてください。そこには豊かな世界が無限に広がっています。

第2章　領域を越えて

この章では、絵画や版画、写真のような芸術上のジャンルであったり、面で表される二次元と立体や奥行きで表される三次元のような異なる空間の広がりといった、**既定の枠組みを越えることで生まれた表現**を**ふたつのテーマ**でとりあげます。

テーマ「写真と絵画」では、カメラを使って対象を正確に写しとる写真と、手作業でつくられる一点ものとしての絵画の特性をともに取り入れた作品を紹介します。**森村泰昌**（1951－）は有名な名画に扮した自分の姿を写真に収めた作品で知られています。一見すると誰もが知っている絵のようでありながら、よくよく見てみるとリアルな森村の姿が浮かんでくるという仕組みは、わたしたちが作品の何を見ているのかについて、改めて考えさせてくれます。

森村泰昌《批評とその愛人 4》1989 年
©Yasumasa Morimura

テーマ「二次元と三次元」では、奥行きのある空間を平面に収めるという点で共通する、写真と絵画の特性や、次元そのものに言及した作品を紹介します。**斎藤智**（1936－2013）は、異なる時間に撮影した風景を原寸大に現像し、それを同じ場所で再び写真に撮るという手法を用いました。そこに見えているものは真実でしょうか。あるいはイリュージョンなのでしょうか。

第３章　現れた力と運動

重力や運動のような姿形の無いものは、美術ではどのように取り入れられ、表されてきたのでしょうか。この章で**ふたつのテーマ**のもとに紹介するのは、**力の働きとその方向性**に触れた作品です。

テーマ「力学」では、衝撃や圧迫、衝突のように、力のかかったものが動くことによって起きる現象を扱った作品を紹介します。**嶋本昭三**（1928－2013）は、瓶に絵の具をつめ、それをキャンバスに投げつける瓶投げ絵画で知られています。この手法で、勢いよく飛び散った絵の具やガラスの破片までも表現の一部にしたのです。激しい衝突の跡は、その前に瓶が高速で移動したことを示唆しています。

テーマ「ベクトルのゆくえ」では、力の働く方向や、水平・垂直・斜めなどに向かう力に言及した作品を紹介します。**植松奎二**（1947－）は、木・石・布・金属などを使った立体作品を通して、重力や磁場の働きを提示する試みを続けてきました。目には見えないこうした力の向きや関係性は、どのように表されているのでしょうか。

嶋本昭三《作品》1960 年
山村コレクション、©ShimamotoLAB Inc.

第４章　光

わたしたちがものを見る時に無くてはならない光。色や形、奥行きを認識するためには、目に入った光が眼球を通って網膜の上に焦点を結び、それが電気信号として視神経を伝わって脳に伝達されるという仕組みがあります。日常生活の中で、この光の役割や存在について、特別に意識することはほとんどないでしょう。しかし、**ここで紹介する作家たちは様々な光の姿に気付き、それを作品に**しました。光を透過するシートに絵を描いて影絵を作り、印画紙に写すという手法を使った**三宅砂織**（1975－）や、色付のプラスチック板で形を作り、中に照明を仕込んで光る彫刻とした**山口勝弘**（1928－2018）のように、光の働きや特性、あるいは光そのものを作品に取りこむことで多彩な表現が生まれています。

三宅砂織《３×３ 窓と光》2011 年

選りすぐり館蔵品【常設展示室４】

このたび新たに当館に迎えた**橋本関雪**（1883-1945）と**小出楢重**（1887-1931）の作品に合わせて、**「卓上の表現」と「生き物」というふたつのテーマ**で当館の収蔵品を展示します。

近現代の彫刻【常設展示室５】

当館の収集の柱のひとつに近現代の彫刻があります。**近代彫刻の父と言われるオーギュスト・ロダン**（1840－1917）や**20 世紀モダニズム彫刻の巨匠アルベルト・ジャコメッティ**（1901－1966）から日本の現代彫刻まで、東西の幅広い表現の数々をご覧ください。

オーギュスト・ロダン《オルフェウス》
1892 年（1971 年鋳造）

【小磯良平記念室】【金山平三記念室】

両記念室では、**小磯良平**（1903-1988）**と金山平三**（1883-1964）**の代表作**を展示するとともに、**特集『視覚遊戯ー美術と目の愉しいカンケイ』にちなんで、ふたりの「絵づくり」について考えてみます。**小磯は、若い頃から描く対象の人物だけではなく、人物のまわりの空間をしっかり押さえておきたいと考えていたようです。一方の金山は、風景の中のあらゆるものを見ていましたが、見たものを整理、再構成することで、風景の魅力のエッセンスを引き出しました。

金山平三《最上川辺》1945－56年

「2020 年コレクション展 II」広報画像申込書

e-mail：press@artm.pref.hyogo.jp / FAX：078-262-0903　　兵庫県立美術館　営業・広報担当宛

ご希望画像の作品番号にチェックを入れ、媒体情報をご記入の上、本紙を e-mail または FAX にてお送りください。
申込確認に数日かかることがございます。あらかじめご了承ください。

小企画　吉田博　播磨造船所　絵画群

1
□

吉田博
《播磨造船所　炎天下の鋲鋲作業》
1944 年頃
JMU アムテック
（兵庫県立美術館寄託）

2
□

吉田博
《播磨造船所　松の浦工場東船台》1944 年頃
IHI 相生事業所（兵庫県立美術館寄託）

特集展示　視覚遊戯ー美術と目の愉しいカンケイ

3
□

白髪一雄《天間星入雲龍》1962 年

4
□

森村泰昌《批評とその愛人 4》1989 年
©Yasumasa Morimura

5
□

嶋本昭三《作品》1960 年
山村コレクション
©ShimamotoLAB Inc.

6
□

三宅砂織《3 × 3 窓と光》2011 年

●貴媒体の情報をご記入ください。

○媒体名（番組・雑誌名等）：

○媒体種：新聞・雑誌・ミニコミ・TV・ラジオ・WEB・その他（　　）

○掲載・放送予定日：　　○参考 URL

○原稿確認予定日：

※WEB 掲載の場合、いずれかに○をつけてください。　コピーガード対応　可　・　不可

●申請者の情報をご記入ください。

○貴社名：

○所在地：　〒

○ご担当者名：

○メールアドレス：

○電話番号：

【画像使用に際しての注意事項】

○作家名、作品名、制作年、クレジットなどを記載してください。
○作品画像の加工（着色、トリミング、文字載せなど）はできません。
○基本情報、画像使用の確認のため、ゲラ・原稿の段階で「営業・広報担当」までお送りくださいますようお願いいたします。
○掲載媒体を1～2部、もしくは URL、同録（DVD、CD）を「営業・広報担当」宛にお送りください。
○画像使用は本展覧会の紹介用のみとさせていただきます（会期終了まで）。
○再放送、転載など二次使用をされる場合には、改めて申請願います。

●読者・視聴者プレゼント用招待券：　　組　　名分を希望（最大 5 組 10 名まで。本展を媒体でご紹介いただける場合に限ります）

兵庫県立美術館　取材申込書

取材をご希望の方は下記にご記入のうえ、
取材希望日の3営業日前までに
メールまたはFAXにてお申込みください。

お申込日　　年　　月　　日

メール送付先：press@artm.pref.hyogo.jp / FAX送付先：078-262-0903

取材内容

希望日時	第1希望		年		月		日		曜		時		分	〜		時		分
	第2希望		年		月		日		曜		時		分	〜		時		分
	第3希望		年		月		日		曜		時		分	〜		時		分
希望場所																			
企画内容																			
カメラ撮影	□あり □なし	スチール		台		ムービー		台		三脚/脚立		台							
取材人数		人	取材時の代表者名																
媒体種別	□テレビ	□ラジオ	□新聞	□Web	□その他（　　）														
媒体名																			
掲載・放送予定日時	□掲載 □放送		年		月		日		曜				時		分				

ご連絡先	担当者名	
	社名・部署名	
	住所	
	電話番号	
	FAX	
	E-mail	

＊ 企画内容によってはご要望に沿えない場合もございますので、あらかじめご了承ください。
＊ 作品の著作権保護や出展作品のクレジット確認等のため、展示風景や作品の画像使用にあたっては、紙面掲載、番組放送前に原稿を確認させていただいております。校正段階での原稿・映像等を事前に広報専用メールへご提出ください。
＊ 掲載媒体を1～2部、もしくはURL、同録（DVD、CD）をお送りください。

〈取材についてのお問い合わせ〉
兵庫県立美術館　営業・広報担当（細田・村上・有田）
〒651-0073兵庫県神戸市中央区脇浜海岸通1-1-1
TEL：078-262-0905　FAX：078-262-0903　Mail：press@artm.pref.hyogo.jp